

北区浮間子どもティーンズセンター

「お兄さんお姉さんサンタがやってくる！！」
サンタになって小さい子にワクワクを届けよう

取組の背景・目的

【背景】

北区では児童館・子どもセンターを拠点に「児童館ネットワーク事業」を実施している。児童館ネットワーク事業とは、児童館・子どもセンターを拠点に「地域の子どもは地域で育てる」という観点から、児童館利用保護者や民生・児童委員が主となり、近隣地域ごとに交流を深め子育てしやすい環境づくりを目指し活動を行っている。浮間子ども・ティーンズセンターでは中高生と乳幼児親子の交流を目指し、毎年クリスマスの時期に「お兄さんお姉さんサンタがやってくる」というイベントを実施している。

【目的】

- ・乳幼児親子と中高生世代の異年齢交流の機会とする。
- ・中高生世代も地域の一員として活躍できる場を作る。
- ・ネットワーク事業の活動を多くの世代に知ってもらう。

取組の概要

【内容】

- 1日目：クリスマスパレード…地域をサンタやトナカイに扮して回りネットワーク事業のPRを行う。
- 2日目：クリスマスパーティー…乳幼児親子と中高生世代の交流会。中高生サンタから参加者へプレゼントを渡す。

【事前準備】

- ・中高生の参加者を募る。（中学校の校内放送やチラシの配布でPR）
- ・事前打ち合わせ（中高生メンバー、民生・児童委員、職員）でパーティーの内容やパレードのプレゼントの検討と準備
- ・乳幼児親子の参加を募集する。参加する乳幼児親子から当日渡すプレゼントを預かる。

【パレード当日】

参加人数 中高生4名 民生・児童委員、職員6名 出合い触れ合った人53名

中高生と民生・児童委員、職員がサンタやトナカイに着替え、地域を回り、遊んでいる親子や児童を見かけたら「児童館ネットワーク事業」のPRチラシ配布とみんなで作ったサンタやトナカイの折り紙を配布する。

【パーティー当日】

参加人数 中高生9名 乳幼児16組35名 招待者（中学校長、町会長、民生・児童委員など）

当日の司会進行は中学生が行う。ふれあい遊びやゲーム（サンタさんが転んだなど）中高生がリーダーシップを取りながら世代間交流を楽しむ。その後、親御さんから預かったプレゼントを参加幼児一人一人にサンタ、トナカイさんから渡す。

工夫点・留意点

- ・中学校との複合施設の特性を活かし、中学校へ校内放送の依頼や生徒へのチラシの配信をお願いすることができた。
- ・乳幼児親子への誘いかけは、中高生と触れ合う機会はありませんので良い機会になること、中高生の頑張る姿を見てほしいなどの声掛けをする。なかには前回参加してくれた親子もいて楽しかったから今年もやりたい」と積極的に参加してくれる。

取組の効果

参加した中高生からは、はじめは恥ずかしかったが周りの人に喜んでもらえたり、感謝されたりして自信がでてきた。また来年も参加したいという意見もあった。また参加親子からは、中学生が一所懸命考えていることが伝わった。素敵な時間をありがとうございます。お兄さんお姉さんと触れ合う機会は少ないので子どもも喜んでいたので参加して良かったです。と好意的な感想を多くいただいた。

10年続いている事業で民生・児童委員の方にも周知され、毎年楽しみにしてくださるイベントになっている。日頃地域の方と中高生世代が触れ合う機会もないが、毎年行うことで地域の方と顔見知りになり、挨拶を交わせるようになっている。乳幼児親子にも中高生世代が身近に感じてもらえるようになった。

参加者親子から活動に従事した子は感謝の言葉をもらい、恥ずかしさを持ちながら頑張っていた子たちは達成感を味わうことができた“誰かのために何かをする”ことの充実感を味わうことができた。

課題・今後の展開

- ・どの地域も地域の町会自治会で行われている事業の担い手が少なくなっている中で、少しでも地域に貢献できる活動に参加し、興味を持つきっかけになればと考えている。
- ・中高生は小さい子との関わりを持つ機会がほとんどないので初めての子も多かったため、ぎこちなさや消極的な場面も見られた。事前に関わり方をレクチャーするなどの準備もあった方が良かった。
- ・乳幼児親子は中高生が主体となってサンタやトナカイに扮してイベントを行ってくれることに興味を示し参加してくれたので、日常の中でも触れ合える活動を増やし関わりを持っていきたい。



〔パレードの様子〕



〔パーティーの様子〕